§1.追加ボーリングによる設計条件の精査

事　　項	要　　点	備　　考
1-1 迫地区 1-1-2 地下水分布	・ 第１回大滝ダム貯水池斜面対策検討委員会（H18.11.5 開催：以下「第１回委員会」）において、迫地区の下部すべり初期地下水位は、すべり面下として確認されている。 ・ しかし追加調査孔２孔のうちの１孔（SK06-8 孔）で、すべり面上に存在する水位が、掘進中に観測された。	
1)初期地下水位設定方針	第１回委員会において、初期地下水位の設定方針が確認されている。今回の追加調査でもこの方針を踏まえた。 **迫地区初期地下水位設定方針　（第１回大滝ダム貯水池斜面対策検討委員会資料より引用）** 【迫地区初期地下水位の設定】 ・各ボーリング地点における地下水位の設定は、下記によるものとする。 ① 自記地下水位観測結果を優先。長期的な安定水位を採用。 ② 自記地下水位観測がない地点は、掘進作業翌朝の孔内水位観測結果を踏まえ、地下水位を設定。 1) すべり面近傍の掘進作業において、すべり面上部に翌朝水位※が観測された場合、地下水位はすべり面上部にあるものとする。 2) すべり面上部にて地下水位が観測されなかった場合、地下水位はすべり面下部にあるものとする。 図 1-1-6 に、第１回委員会時点（追加調査実施前）における、迫地区主測線（No.3’測線）の風化区分断面図と地下水位線を示す。	※翌朝水位： 調査孔掘進時に観測した水位のうち、削孔水の影響が少ない掘進作業翌朝に確認した水位

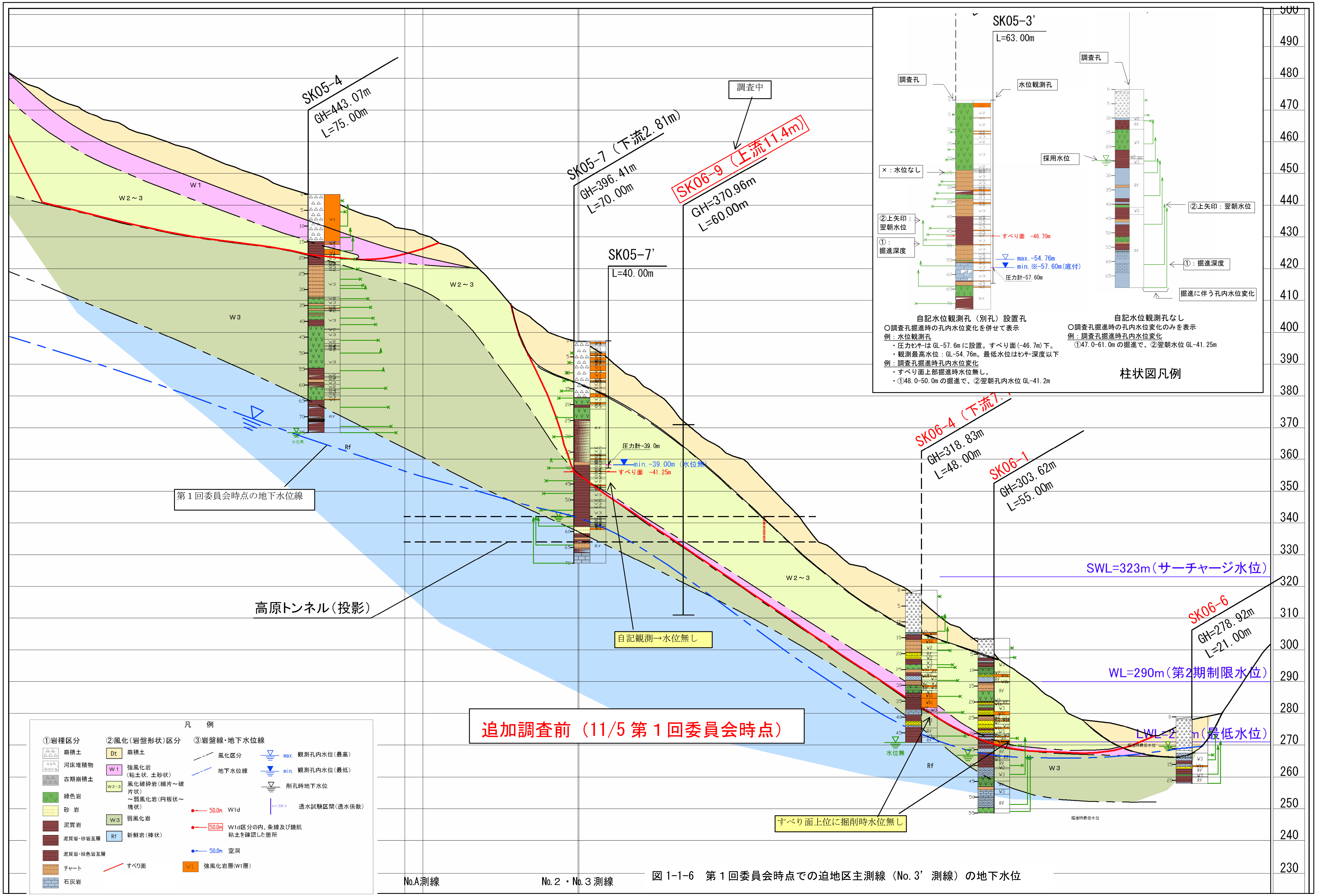

図 1-1-6 第１回委員会時点での迫地区主測線（No.3' 測線）の地下水位

§1. 追加ボーリングによる設計条件の精査

事　　項	要　　点	備　　考
1-1 迫地区 1-1-2 地下水分布 2) 追加調査孔掘進時水位	追加調査孔２孔（SK06-8, SK06-9 孔）の実施地点は、ともに主測線(No3’測線)より 10m 以上離れた位置にあるため、調査孔２孔を結ぶ測線（NoC 測線）を新たに設定し、ボーリング掘進時の地下水位観測記録から、地下水位分布を検討した。 図 1-1-7 に地下水位設定方針を踏まえ、SK06-8、SK06-9 孔の掘進時の地下水位観測記録から設定した、NoC 測線上の地下水位分布を示す。 SK06-9 孔は、すべり面付近掘進中に、すべり面上で翌朝水位が観測されなかったが、SK06-8 孔ではすべり面付近掘進中、すべり面上で翌朝水位が観測された。掘進時の水位観測記録に基づけば、NoC 測線上では、地下水位がすべり面上に存在し、高原トンネル底面付近で平衡状態に達する。	SK06-8 孔で水圧式水位計による自記水位観測を開始。

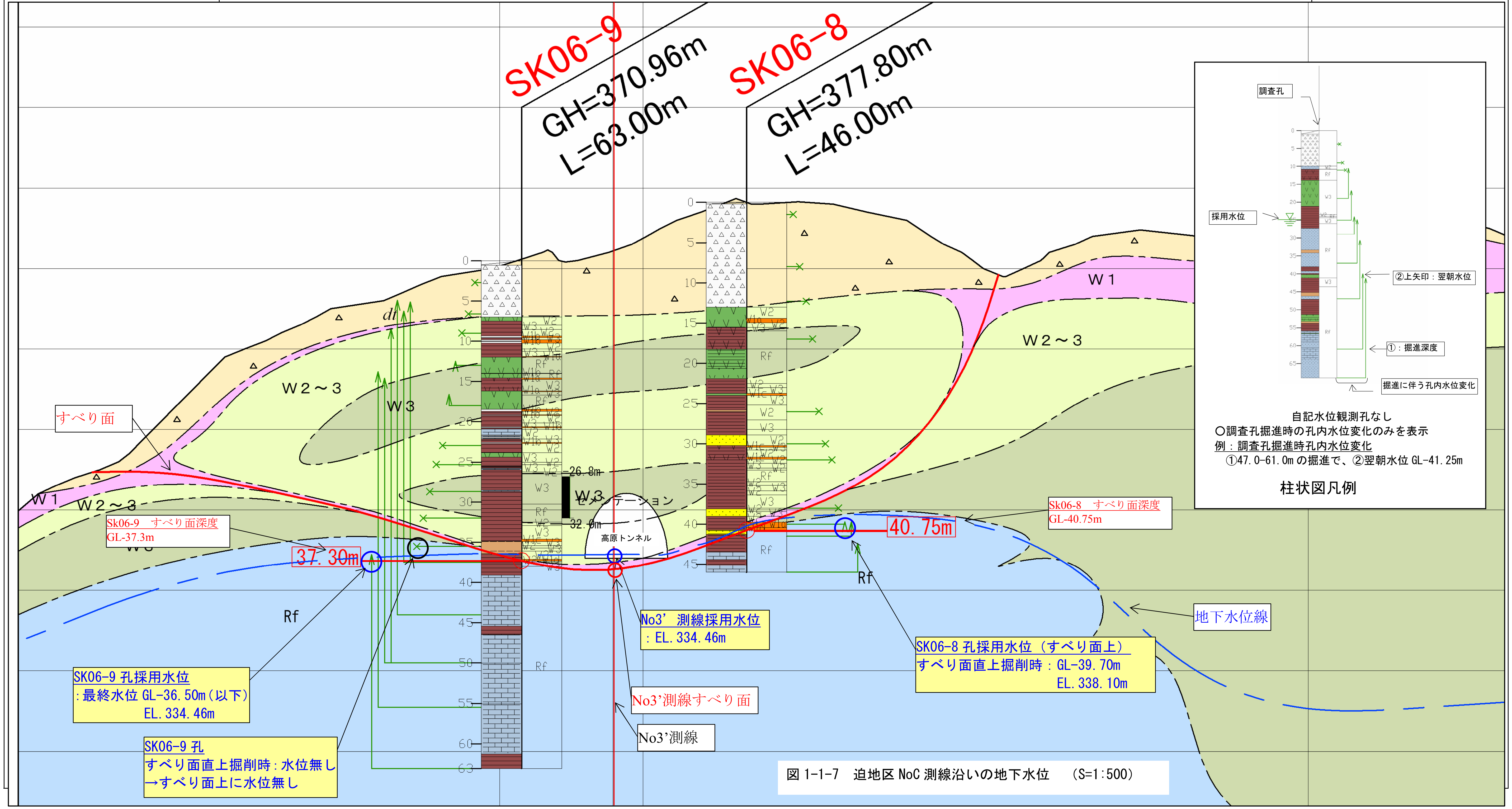

図 1-1-7　迫地区 NoC 測線沿いの地下水位　(S=1:500)

事　　項	要　　点	備　　考
1-1 迫地区 1-1-2 地下水分布 3) 主測線上の地下水位	図 1-1-8 に、主測線（No3'測線）上の地下水位分布図を示す。 No.C 測線上の地下水位検討結果を踏まえ、主測線（No3'測線）上の地下水位を検討した結果、高原トンネル底面付近のすべり面より上位で、地下水位が存在する。	

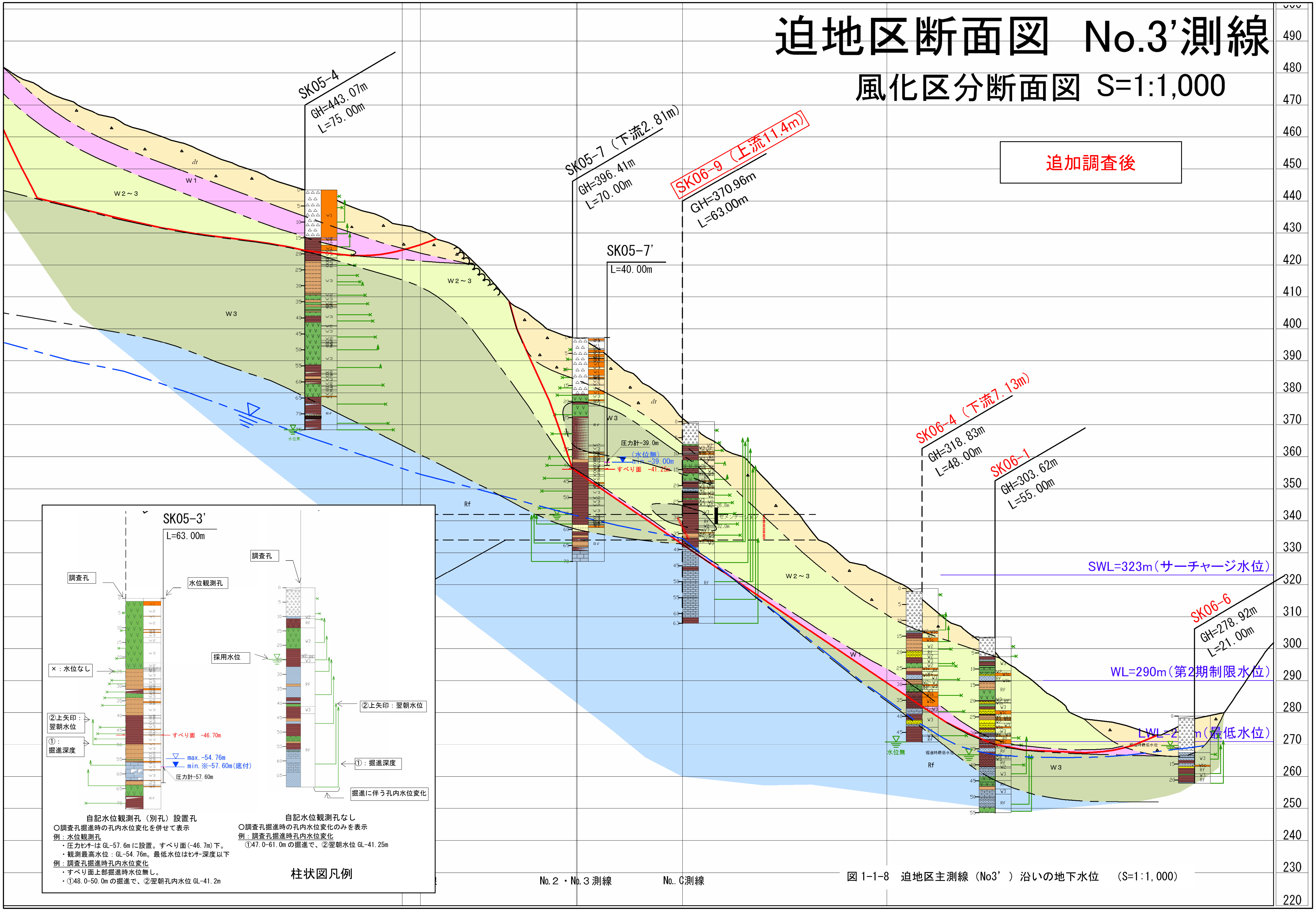

図 1-1-8　迫地区主測線（No3'）沿いの地下水位　（S=1:1,000）